

小笠原村教育委員会教育長
上原 一夫 様

小笠原村立小笠原中学校長
武 内 亮
(公印省略)

令和 7 年度 小笠原村立小笠原中学校 学校評価の結果等に関する報告

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標及び教育目標を達成するための基本方針

【学校の教育目標】

- ・よく学び、考え、行動する人
- ・やさしくたくましい人
- ・社会の一員として貢献できる人

【学校の教育目標を達成するための基本方針】

ア 全教育活動を通して、主体的に自ら課題を見付け学習に取り組む態度を養う。また、教科等横断的な学習を実践し、直面する課題をグローバルな視点で捉え、解決する力を育むとともに、自らの力を地域や社会のために進んで役立てようとする行動力を育成する。

イ 学校評価アンケートを実施し、地域・保護者の願いや思いを学校の教育活動に反映させていくとともに、「地域懇談会」等を開催し、広く地域・保護者と情報共有や協議等を行うことを通して、「社会に開かれた学校」の実現を図る。

ウ 義務教育学校化を想定した小中一貫教育の質的向上に向けて、義務教育 9 年間の学びの系統性に即した教育活動を展開し、小笠原村内の各学校と研修会や合同行事、小中高教科交流等を通し、連携を進める。特に小笠原小学校とは、各教科の内容のまとまり等において、中学校教員が参加したチーム・ティーチングを実施することにより、小中一体となって教科担任制を推進する。

エ 自分の大切さとともに、他の人の大切さが認められていることを実感できるような環境づくりを教育活動全体で推進するとともに、学習者用端末やドリル型学習コンテンツを活用し、不登校生徒の学習権を保証するなど、現在の様々な人権課題に適切に対応する。

オ 小笠原の自然や文化を活かした「小笠原学習」を通じて、地域の一員として自己の在り方や課題を自らのものとして捉え、解決に向けて粘り強く取り組む態度を育成する。

カ 健康・安全に生活する力を培うために、食や性に関する理解を深め、自己の健康に対する意識を高め体力の維持・増進を図る。生徒との適切な信頼関係を基に、いじめや生命尊重、安全に関する指導を発達の段階に応じて系統的に行う。

キ 「個別最適な学び」の視点から生徒一人一人が「わかる」から「できる」を実感する授業を実現するために、各種学力調査の分析を基に「指導と評価の一体化」を踏まえた授業改善を図る。

ク 社会の在り方が劇的に変化する時代に対応する力を高めるために、言語活動を充実させたり、学習者用端末等を活用した教育活動を積極的に展開したりすることで、自らの考えを主体的に発信していけるコミュニケーション能力を育成し、どんな状況下でも最善を尽くし、未知の状況に対応する生きる力の育成と社会的・職業的自立を図る。

2 今年度の学校経営方針において重点課題として設定した項目

① 確かな学力の向上

- ・授業評価や学力調査の結果を分析して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
- ・放課後学習教室「おが中寺子屋」を開催したり、家庭学習ノートの取組を充実させたりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。
- ・管理職による定期的な授業観察と指導・助言を行うとともに、組織的な校内 OJT の充実を図る。

② 豊かな心の育成

- ・心の教育及び人権教育を教育活動全体で推進する。
- ・人間性を豊かにするとともに、学習者用端末やドリル型学習コンテンツを活用し、不登校生徒の学習権を保障するなど、現在の様々な人権課題に適切に対応する。
- ・コミュニケーション能力の育成をねらいとした道徳の校内研究を進める。

③ 信頼される学校づくり

- ・学校評価アンケート等の活用や「地域懇談会」の開催を通して、地域・保護者の願いや想いを学校運営に反映させ、「社会に開かれた学校」の実現を目指す。
- ・各種通信や SNS、「統合型校務支援システム」等を活用し、学校生活について積極的に発信する。
- ・小笠原小学校との各教科の内容のまとまり等において、中学校教員の専門性を活かしたティーム・ティーチングを実施し、小中一貫教育の充実を目指す。

3 本年度の取組内容及び実績

【重点課題①】 確かな学力の向上	
取組内容	取組実績
・授業評価や学力調査の結果を分析して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。	➡授業改善推進プランの作成に授業評価や学力調査の結果を反映させるとともに、9年間の学びを見通した系統性のある年間指導計画の作成を進め、学習指導内容の改善を図ることができた。
・放課後学習教室「おが中寺子屋」を開催したり、家庭学習ノートの取組を充実させたりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。	➡生徒の学力向上を図るべく、放課後学習教室「おが中寺子屋」を開催した。生徒が自主的に学習し、進んで質問したり、既習事項に立ち戻って学習したりできる場を設定することで、学習意欲の向上を図ることができた。
・管理職による定期的な授業観察と指導・助言を行うとともに、組織的な校内 OJT の充実を図る。	➡各教員の授業を毎週1時間以上参観し、効果的な指導や授業の改善点について授業者にフィードバックする場を設定することができた。また、学期に一度「授業参観週間」を実施し、各教員が互いの授業を見合う取組を実施した。それぞれの教員のもつ指導技術を共有し、授業力向上につながるなど、校内OJTを推進することができた。

【重点課題②】豊かな心の育成	
取組内容	取組実績
・心の教育及び人権教育を教育活動全体で推進する。	➡東京都より人権尊重教育推進校の指定を受け、教員の人権感覚の再確認と向上に取り組んだ。講師を招聘した講演を年度内3回実施し、東京都が目指す人権尊重教育への理解が深まった。特に人権尊重に向けた普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組についての理解が深まったことで学校の教育活動全体で人権尊重教育を行えることを確認できた。
・人間性を豊かにするとともに、学習者用端末やドリル型学習コンテンツを活用し、不登校生徒の学習権を保証するなど、現在の様々な人権課題に適切に対応する。	➡特別支援や人権教育に関する研修を行い、発達支持的生徒指導の観点から生徒を見取り励ます個々の教員の指導力を高めることができた。また、学習者端末を活用したオンライン授業や感覚の過敏な生徒に対して学年教員が別室対応を行って欠席や遅刻、早退の回数が減少するように工夫するなど、生徒の学習権を保証することができた。
・コミュニケーション能力の育成をねらいとした道徳の校内研究を進める。	➡道徳の授業を輪番制で実施し、毎時間同じ学年を組む全ての教員で指導案の事前検討や授業観察を行った。さらに、授業後に学年会等で互いの授業の成果と課題をフィードバックし、日々の学習指導に活かすなど、教員一人一人の指導力向上につなげることができた。

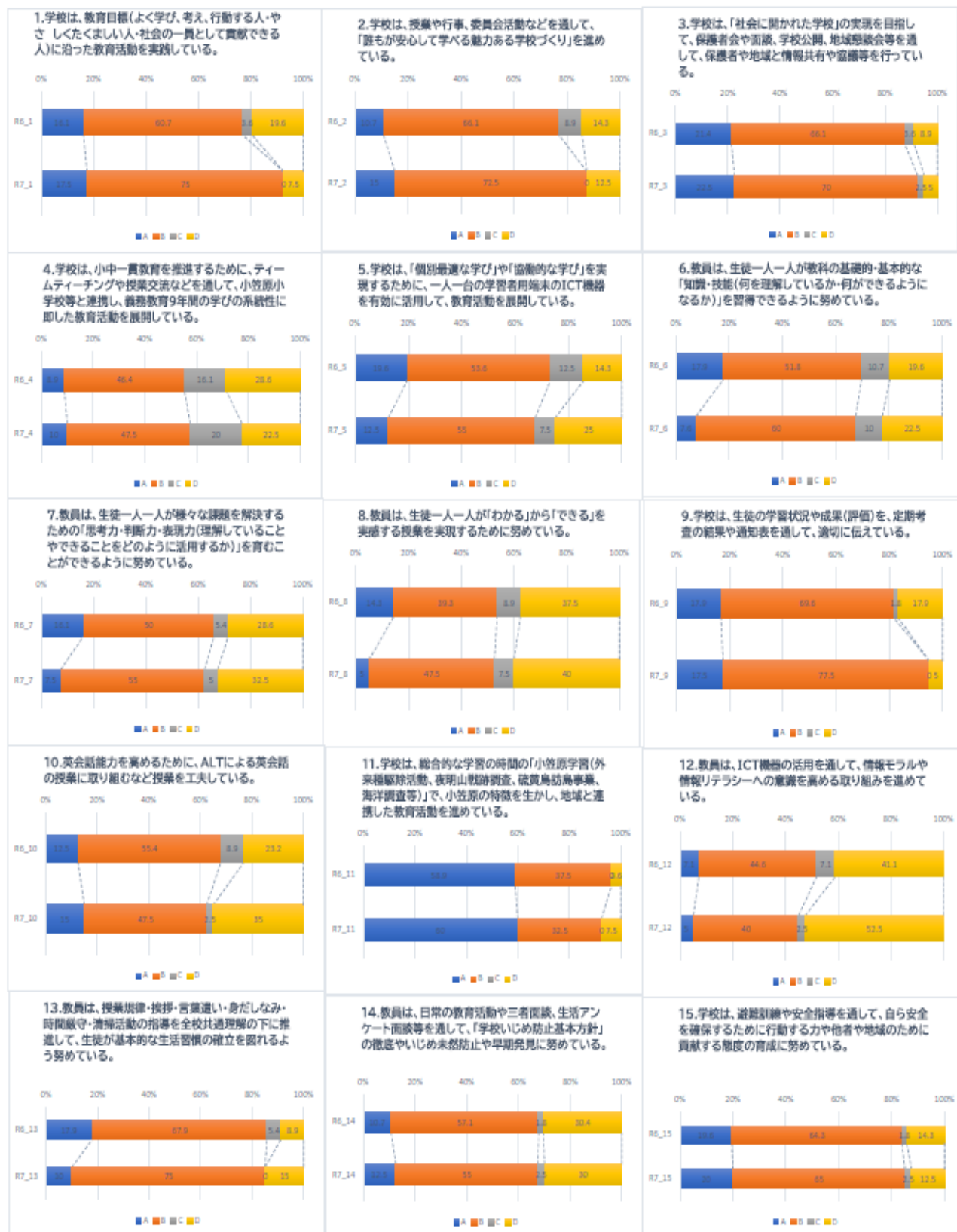
【重点課題③】信頼される学校づくり	
取組内容	取組実績
・学校評価アンケート等の活用や「地域懇談会」の開催を通して、地域・保護者の願いや想いを学校運営に反映させ、「社会に開かれた学校」の実現を目指す。	➡各学期1回ずつ「地域懇談会」を開催し、児童・生徒の生活面や学習面、大切に育てていきたい力等について、広く意見交換を行うことができた。
・各種通信やSNS、「統合型校務支援システム」等を活用し、学校生活について積極的に発信する。	➡毎週の学年だよりに加え、各教員の授業実践や授業の見どころを紹介した毎月の学校だより、フェイスブック、BLEND 保護者連絡などを通して、積極的に情報発信することができた。
・小笠原小学校との各教科の内容のまとめり等において、中学校教員の専門性を活かしたチーム・ティーチングを実施し、小中一貫教育の充実を目指す。	➡ほぼすべての教科において中学校教員による指導や指導補助を行うことができた。小学校の児童理解につながるだけでなく、各教科の系統性を小中それぞれの教員で確かめ合うことができた。

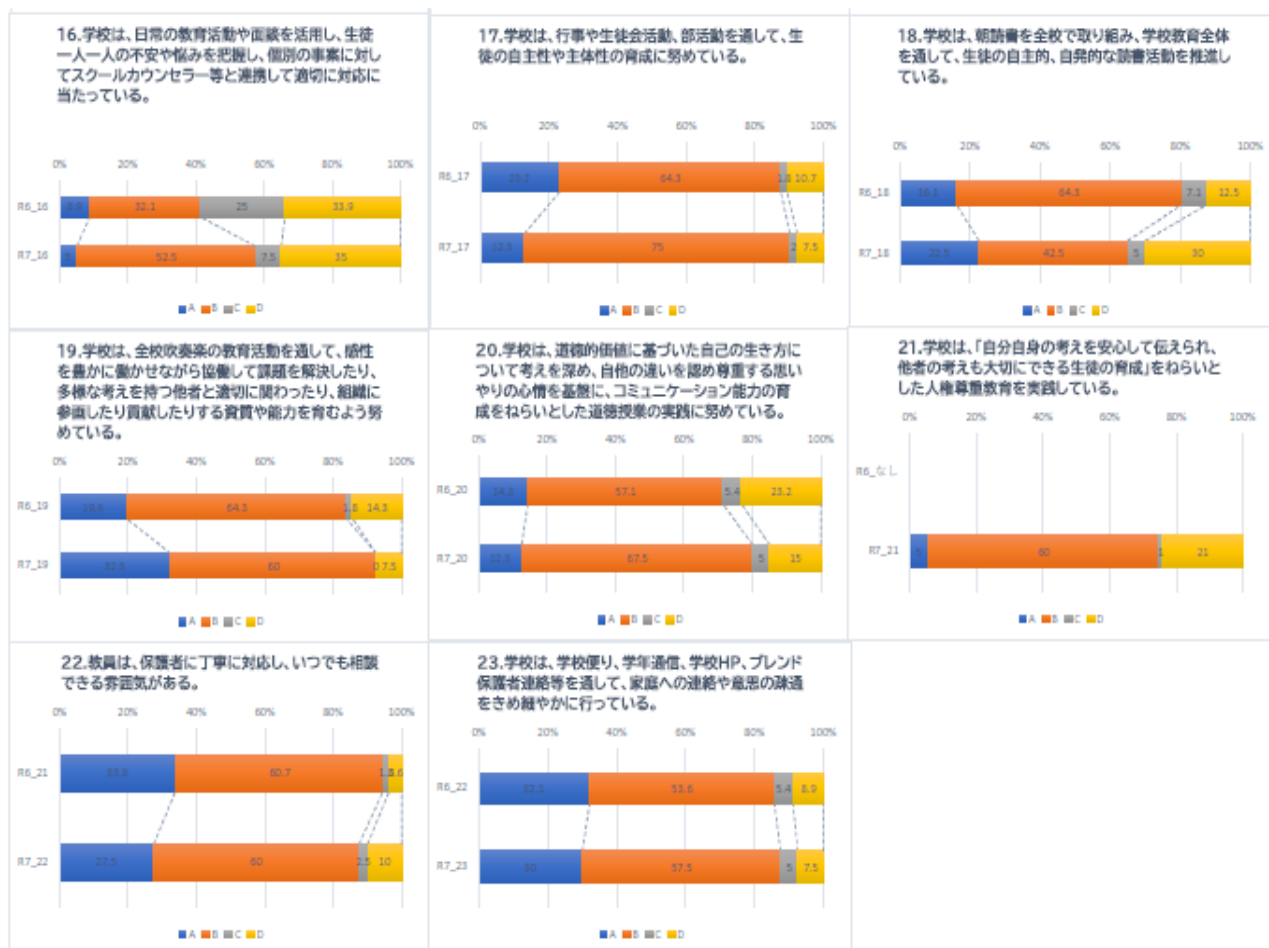
4 関係者評価の概要

【保護者】令和7年度学校評価アンケート 回収率75%（配付家庭数 55家庭）

◎今年度の学校経営方針において重点課題として設定した項目の成果と課題を分析するため、11月に保護者に対し学校評価アンケート（4件法）を実施し、昨年度との比較を行った。

◎「A とても思う」・「B そう思う」に着目し、AとBの回答を合算した「肯定的評価を」主要指標として用いた。





【生徒】令和7年度学校評価アンケート 回収率90%（配付生徒数 61名）

◎小笠原中学校の教育活動について、教務部・生活指導部・その他の活動の観点から生徒の意見を募り、各分掌で検討を行った。

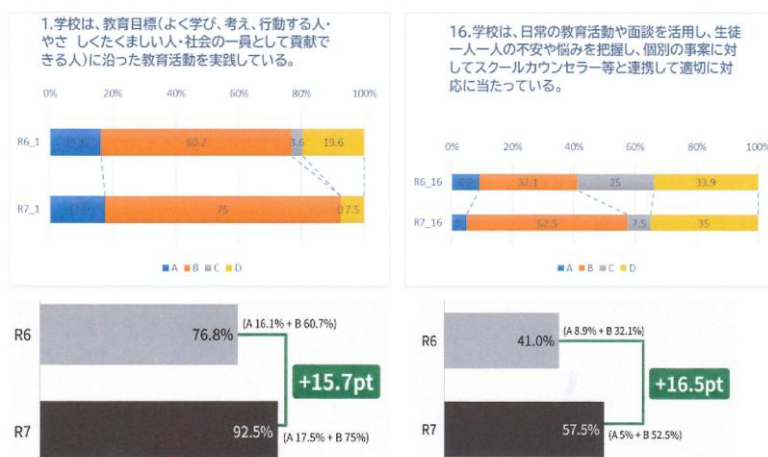
質問項目

- ・【教務】授業や宿題、自主学習ノートに関すること
- ・【教務】評価・評定、成績に関すること
- ・【教務】行事予定に関すること
- ・【教務】進路学習、放課後学習教室、学習環境に関すること
- ・【生活】生活のきまりに関すること
- ・【生活】生徒会、各種委員会、中央委員会に関すること
- ・【生活】部活動に関すること
- ・【生活】小笠原中学校がよりよくなるために関すること

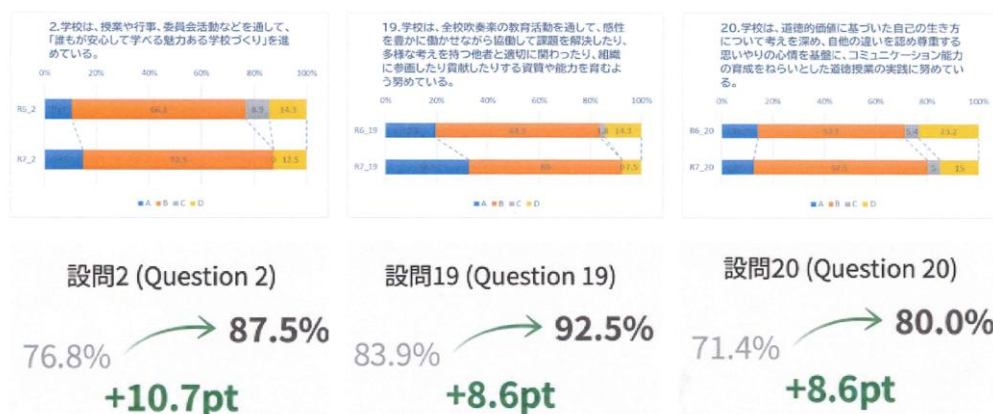
5 学校評価から見える今年度の教育活動の成果と課題

成果①：学校の根幹となる項目で評価が飛躍的に向上

2つの保護者学校評価項目で肯定的評価が大幅に向上した。項目①は、「C」の否定的評価が0になったことも大きい。評価項目⑩は今年度新たなスクールカウンセラーが配置されたことや、支援委員会をはじめとした校内の支援体制の充実が要因になっていると考える。



成果②：学校生活の質と満足度も着実に向上



学校生活に関わる保護者学校評価の3つの項目で概ね10%前後の肯定的評価向上が見られた。保護者学校評価項目①と同様に、②も否定的意見が無かった。項目①⑨の結果からは、本校の特色ある行事「全校吹奏楽」への保護者の高い期待を感じることができる。項目②については、【重点課題②】豊かな心の育成で取り組んできた道徳の校内研究の成果が表れていると考える。

成果③：本校のゆるぎない基盤を再確認

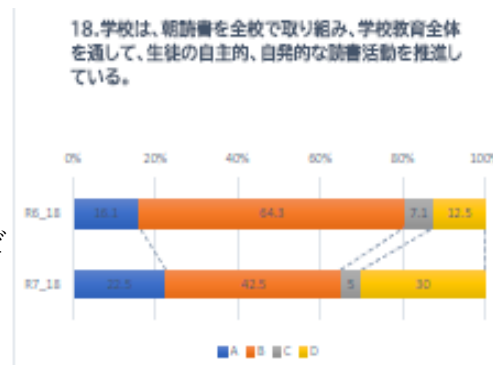


保護者学校評価項目③、⑨、⑪は昨年度から高評価を保ち続けている。【重点課題③】信頼される学校づくりにつながる③・⑨は、地域・保護者への積極的な情報共有が評価された。項目⑪の結果は、小笠原学習への期待の表れである。生徒学校評価でも「故郷のこのことについて、知ることは大切なのでこれからも続けてほしい。」「今行っているすべての総合学習は行うという前提で新たに生徒たちで学びたいものを出し合って生徒たちで決めて学ぶというのもいいなと思います」という声が挙がるなど、生徒も小笠原学習に対して前向きである。今後一層の充実を図っていきたいと考える。

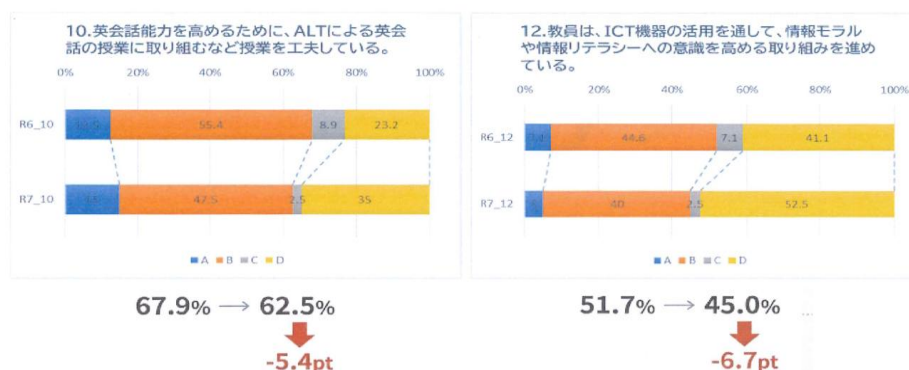
課題①：読書活動に関する項目が著しく低下

令和7年度は「A とても思う」の割合は増えたものの、「B そう思う」が21.8ポイント減少した。結果として全体の肯定的評価を押し下げることとなった。本校の読書活動への理解を深めるためにも、保護者を巻き込んだ読書活動の展開が求められる。

また、委員会活動で行われる小学校児童への読み聞かせなどの活動を積極的に発信していく。

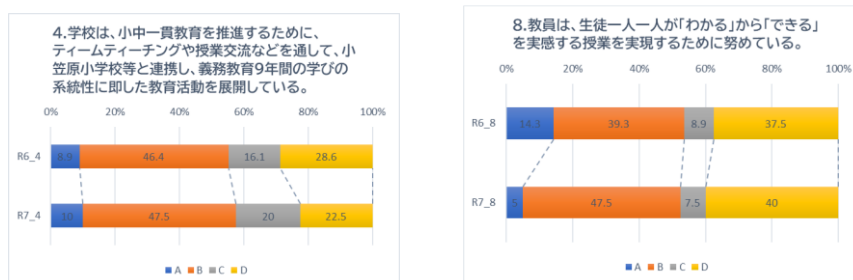


課題②：保護者に見えにくい・伝わりにくい項目の見直し



⑩、⑫については質問項目の内容がやや抽象的であり、保護者に学校の教育活動がイメージしにくいものとなっている。また、どちらの項目も「D わからない、答えられない」が10%以上増加している。具体的な事例を紹介し、保護者にさらに周知する機会を検討する。

課題③：長年停滞している項目（肯定的評価が50%程度）の見直し



項目④については、小学校との縦割り交流を充実させていくとともに、小学校教員も中学校授業に参画する機会を設定する。項目⑧や⑥、⑦は評価の在り方について村立学校と村教委とで確認し合う研修の場を設けながら、生徒や保護者が適正な評価を実感できるように取り組んでいく。⑧に関連して、生徒の学校評価では、おが中寺子屋の開設時間の延長を求める声があった。生徒の学習意欲に応えていくために環境を整える。

6 次年度の学校経営において重点的に取り組むべきと認識する課題

「誰もが安心して学べる魅力ある学校づくり」

- ①人権尊重教育の視点および発達支持的生徒指導を大切にし、生徒を尊重し、個性の発見とよさや能力の伸長に努める。
- ②生徒一人一人が基礎的・基本的な「知識・技能」を確実に習得するとともに、持続可能な社会の創り手となる資質・能力の育成に向け、様々な課題解決のための「思考力・判断力・表現力等」を育む。
- ③生徒が自発的・主体的に自らを発達させる活動等を意図的・計画的に実施し、生徒の自己有用感の育成および社会的資質・能力の発達を支える。

*本報告書各項目の記載内容は、次年度の教育課程及び学校経営方針等学校経営に係る各種資料へ反映いたします。